

2011 薬害根絶デー

集 会 プ ロ グ ラ ム

- ◆薬害の実態
～学生による薬害被害者へのインタビューVTR 上映～
- ◆医療現場での取り組み報告
- ◆薬害肝炎検証・再発防止委員会及び医薬品等制度改正
検討部会の報告
- ◆薬害イレッサ 報告と訴え
 - ◇弁護団報告
 - ◇原告訴え
- ◆薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）省庁交渉報告
- ◆薬害対策弁護士連絡会（薬害弁連）あいさつ
- ◆行動提起・閉会あいさつ
- ◆有楽町マリオン前にて街頭宣伝
(17時30分から45分ほど。ぜひご参加下さい)



薬害の歴史

(ただし主なもの)

◆1948年 京都・島根ジフテリア予防接種禍

伝染病ジフテリアの予防接種を受け、京都で68人が死亡。606人に発熱や嘔吐、注射部分が腫れてケロイド状の跡が残るなどの症状が見られた。島根県でも同月に16人が死亡、324人に同様の症状が出た。

◇1956年 ペニシリンショック

1956年、東京大学法学部の尾高朝雄部長が歯科医院で歯を抜き、抗生物質のペニシリンを注射されショック死した事件。

◆1961年 サリドマイド

鎮静・睡眠剤サリドマイド（日本では胃腸薬にも配合）は、当初副作用も少なく安全な薬と宣伝され発売された。その後、これを服用した妊婦から手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は、世界で数千人、日本で約千人（認定309人）。日本では61年のレントツ博士（ドイツ）の警告にもかかわらず、販売を継続し、被害が倍増した。

◇1967年 ストマイ

抗結核薬ストレプトマイシンにより、難聴障害（ストマイ難聴）などが多発した。

◆1970年 種痘禍

天然痘の予防接種後に、脳炎を起こす被害が多発した。被害者の多くは乳幼児で、死亡ないし脳機能喪失の重篤な被害が生じた。

◇1970年 コラルジル

冠血管拡張剤（心臓の薬）コラルジルによって、肝臓障害および血液異常をきたす患者が多数発生（死亡者あり）した。被害者千人以上。

◆1970年 スモン

60年代から下肢のマヒや視力障害などの末梢神経障害が多発。64年に症状の英名の頭文字をとりスモン（SMON）と命名。70年に整腸剤キノホルムが原因とされるまでウィルスによる伝染病と疑われ多数の自殺者が出た。被害者約1万2千人。製薬企業は35年のバロス警告（アルゼンチン）を無視し、戦後整腸剤として大量販売した。

◇1971年 クロロキン

抗マラリア薬、抗炎症薬クロロキンによる視力障害（クロロキン網膜症）。被害者は千人以上。

◆1973年 筋短縮症

幼児、小児への筋肉注射（大腿四頭筋、三角筋、臀筋）によってその部位が伸びなくなり、膝や肩、腰の関節が曲がらなくなる症状が相次いだ。被害者9千人以上。

◇1975年 三種混合（DPT）ワクチン禍

ジフテリア（D）、百日咳（P）、破傷風（T）を予防のための混合ワクチンの接種の副反応により、脳症などの被害が発生した。

◆1975年 クロマイ

抗菌剤クロラムフェニコールによる再生不良性貧血が7年以上にわたり発生。

◇1983年 薬害エイズ

米国買血由来非加熱製剤を使用していた日本の血友病患者等約5千人がHIV(エイズウイルス)に感染し、感染者約1500人のうち583名が死亡した。生存被害者も重複感染したC型肝炎を抱え、厳しい闘病生活を余儀なくされている。国は、当時安全な国内血漿の利用や加熱製剤の早期導入を行わず被害を放置した。

◆1988年 陣痛促進剤

70年頃から、陣痛促進剤の安易な使用による母親の死亡、子宮破裂、弛緩出血、胎児死亡、新生児仮死による脳性マヒなどが、被害者団体が把握しているだけで150例以上発生。ただし、これは氷山の一角といわれている。

◇1989年 予防接種後肝炎

数百万人ともいわれるB型肝炎、C型肝炎の患者・感染者の多くが、明治から80年代にかけての集団予防接種での連続注射によって完成したと推定される。

◆1989年 新三種混合(MR)ワクチン禍

89年に導入された、はしか(M)、おたふくかぜ(M)、風疹(R)を予防する新三種混合ワクチンの副反応により、約2千人の幼児に無菌性髄膜炎や脳症などが発症。死亡や重篤な後遺症が残ったりした。危険性が指摘されいながら予防接種を5年間強行したことで被害が拡大した。

◇1993年 コスモシン

抗生物質コスモシンにより皮膚障害などが発生。

◆1993年 ソリブジン

带状疱疹の治療薬ソリブジンとフルオロウラシル系抗がん剤の併用に

より、15人が死亡。

◇1996年 薬害ヤコブ病

脳外科手術の際に使用されたヒト乾燥硬膜(ドイツから輸入)がプリオンに汚染されていたために、100名以上がクロイツフェルト・ヤコブ病を発症し植物状態の後に多数が死亡。米国では87年にこの製品の輸入を禁止したが、日本の使用禁止は97年だった。

◆2002年 薬害肝炎

出産時や外科手術時の出血、新生児出血症などに、フィブリノゲン製剤や第Ⅸ因子製剤などの血液製剤を投与され、多くの患者がC型肝炎ウイルス感染被害を受けた。1980年以降にフィブリノゲン製剤の投与を受けC型肝炎ウイルスに感染した被害者は1万人以上といわれている。

◇2002年 薬害イレッサ

「副作用のない夢の新薬」として世界で初めて日本で承認された肺がん治療薬イレッサによって、間質性肺炎など重篤な副作用を発症。2002年の承認以来少なくとも825人の死者がでている(2011年3月末現在)。臨床試験で延命効果が確認されない一方、現在も使用が継続されており、今なお被害が拡大している。

◆2006年 タミフル

インフルエンザ治療薬タミフルによる副作用例が、企業の報告でも異常行動186名、転落26名、死者数70名も報告されている。

(参考文献)さいろ社「薬害が消される!教科書に載らない6つの真実」(全国薬害被害者団体連絡協議会編)など



●薬害根絶デー

1999年8月24日、厚生省（当時）は、前庭に「薬害根絶 誓いの碑」を建立してサリドマイド・スモン・薬害エイズなどの悲惨な薬害を引き起こした反省と謝罪をしたはずでした。

しかし、実際には、今なお新たな薬害が生み出され、適切な救済がなされぬまま、被害と闘う毎日が続いております。

薬害根絶デーは、薬害の根絶と被害者救済を願い、毎年この日に「碑の前の誓い」を中心に、厚生労働省交渉・文部科学省交渉・リレートークなど、一連の薬害根絶行動を行う日です。

●全国薬害被害者団体連絡会議（薬被連）

1999年10月、それぞれの薬害の被害者団体がその枠を超え、共通の目的である「薬害根絶」を実現するために結成。悲惨な被害体験を語り継ぐとともに、薬害防止システムや被害者救済制度の創出、健全な医療社会の実現を目指し、研究、提言、その他の活動に取り組んでいます。（HP <http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>）

<薬被連加盟団体>

（財）いしずえ（サリドマイド福祉センター）／イレッサ薬害被害者の会／MMR被害児を救済する会／大阪HIV薬害訴訟原告団／東京HIV訴訟原告団／スモンの会全国連絡協議会／（財）京都スモン基金／薬害ヤコブ病被害者・弁護団全国連絡会議／陣痛促進剤による被害を考える会／薬害筋短縮症の会／薬害肝炎訴訟原告団

●薬害対策弁護士連絡会（薬害弁連）

2005年8月24日の薬害根絶デーに発足。

わが国で繰り返される薬害事件とその度に提起される薬害訴訟。これら薬害事件や薬害訴訟を解決するために、訴訟上の課題や法廷外の諸課題についての経験交流や研究、相互支援を強化する目的で組織された。薬害訴訟弁護団に携わっている弁護士を中心に70名近い弁護士が参加しています。

